

## 第1回埼玉森林インストラクター会現地研修会

日 時：2020年8月30日（日）

場 所：丸神の滝（小鹿野町）

参加者：16名

報告者：黒川 正美



新型コロナウィルスの影響で、今年度初めての現地研修会、私にとっては埼玉森林インストラクター会初参加の行事でした。今回の講師は、「丸神の滝」の近くにお住いの山中正彦インストラクターです。当日は、秩父市内でも最高気温35.8度の猛暑日、少し標高の高い森林内とはいえ、相当な暑さです。健康チェック、ソーシャルディスタンスなどの新型コロナ対策とともに熱中症にも注意をしての研修実施でした。

研修会は保全の話から始まりました。「丸神の滝」周辺の森林は、現在、シオジ、イヌブナ等の夏緑広葉樹を主体とした森林が残されていること等から、埼玉県の条例に基づく自然環境保全地域（普通地域）に指定されています。埼玉県で最大の面積（293ha）、最初（昭和50年）に指定された自然環境保全地域です。落差76m、3段の滝は、埼玉県で唯一「日本の滝100選」に選定され、春の新緑、夏の深緑、秋の紅葉、冬の氷瀑など四季折々の姿を楽しむことができます。「丸神の滝」周辺地域は、自然環境保全地域として一定規模を超える建築物等の新・改・増築、土地の形質変更等を行う場合は知事への届出が必要となる保全エリアであり、一方、整備された遊歩道等を利用して奇勝景観を楽しむことができる利用エリアでもあり、森林の利用と保全の両立について考えることができるフィールドでした。

「丸神の滝」のある小森川の上流部は、4百年の歴史を繋ぐ家が現在も残る地域ですが、明治期に入ると製炭も行われ、さらに大正年間には関東木材合資会社による山林開発が行われ、滝から引水した水で水車製材、製材品等を輸送するトロッコ軌道も整備されたとのことです。急激に増大した人口に対応するため、百人を超える児童が学ぶ分校も設置されたそうです。当時のものではありませんが旧分校の建物や石積みの砂防堰堤などが遊歩道沿いで見ることができます。



旧分校



石積砂防堰堤

さて、植物の観察ですが、渓流沿いの遊歩道でサワグルミ、カツラ、トチなどからなる渓畔林について学習し、山中講師からは植物学にとどまらず、木材としての特質、利用方法やトチの実の採取、加工（あく抜き等）、調理方法までお話を聞くことができました。

今回の研修会で、冬虫夏草を初めて見ることができたことも、私にとって大きな収穫でした。ベテランの方と一緒に観察でなければ、見つけることはできなかつたと思います。菌はカメムシに寄生するカメムシタケ (*Ophiocordyceps nutans*)、寄生されたカメムシがほぼ完全な形態で現れたときは驚きを感じました。



冬虫夏草



カメムシタケ(冬虫夏草)

外来種のヨウシュヤマゴボウは都心でも見ることのできる植物ですが、今回は森林内で自生種のマルミノヤマゴボウを観察することができました。大きな違いは、ヨウシュヤマゴボウの花穂が下垂するのに対して、マルミノヤマゴボウの花穂は直立です。山中講師からは、マルミノヤマゴボウの種子には指紋のような同心円状の模様があると聞きました。道路沿いにはヨウシュヤマゴボウも実をつけていましたので比較してみました。



マルミノヤマゴボウ



ヨウシュヤマゴボウ

他にも多くの樹木、草本を観察し、有意義な時間となりました。森林内でのわずかな散策とはいえ、汗をかきました。最後に山中さんから頂いたブドウ（藤稔）で糖分を補給し、一息つきました。山中さんの生活に基づくお話は、植物など自然環境分野にとどまらず、植物を取り巻く歴史・文化など広範なものであり、一つ一つの話題に惹きつけられ、次の機会には歴史・文化について、座学でじっくりとお話を聞きしたいと思いました。

山中講師、研修企画に携われた会員の皆様、ありがとうございました。